



平成25年3月期（第31期）

第2四半期 決算説明会



株式会社 免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード:4570

代表取締役社長 清藤 勉

平成24年 11月 9日 (金)

# 決算概要・経営計画

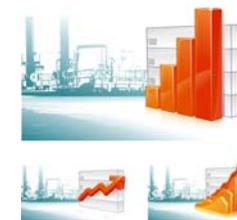
平成25年3月期 (第31期)



1. **第2四半期決算実績について**
2. 平成25年3月期(第31期) 決算計画
3. 経営計画の進捗について



# 平成25年3月期(第31期) 第2四半期決算実績



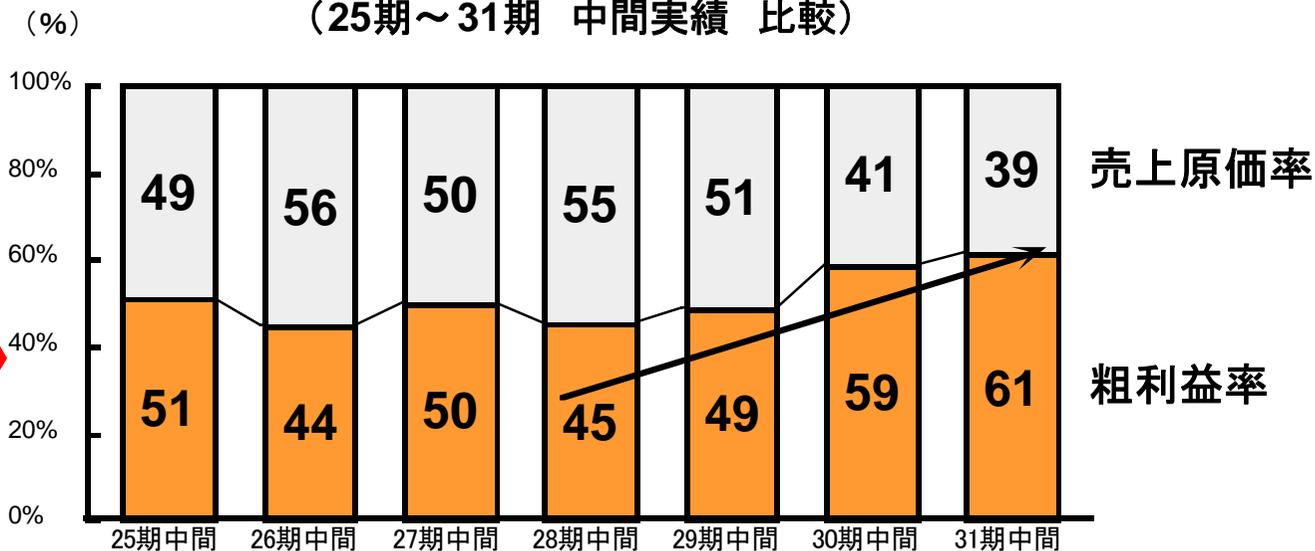
| 単位:千円 | H24年3月期<br>第2四半期<br>累計期間<br>(第30期) | H25年3月期<br>第2四半期<br>累計期間<br>(第31期) | 前期比増<br>減<br>(%) | 主な要因                               |
|-------|------------------------------------|------------------------------------|------------------|------------------------------------|
| 売上高   | 403,105                            | 381,364                            | ▲5.4%            | タカラバイオ(株)独占販売開始<br>体外診断薬(取扱品)の販売終了 |
| 原価率   | 41%                                | 39%                                | ▲2%              | 自社製品構成比割合増(8%)                     |
| 販管费率  | 71%                                | 60%                                | ▲11%             | 営業部門の廃止によるコスト削減<br>コスト効率の改善        |
| 営業利益  | ▲48,455                            | 3,234                              | -                | <b>上期黒字化達成</b>                     |
| 経常利益  | ▲47,358                            | 71,450                             | -                | 販売契約一時金計上                          |
| 当期純利益 | ▲57,756                            | 62,211                             | -                | 固定資産売却損計上                          |



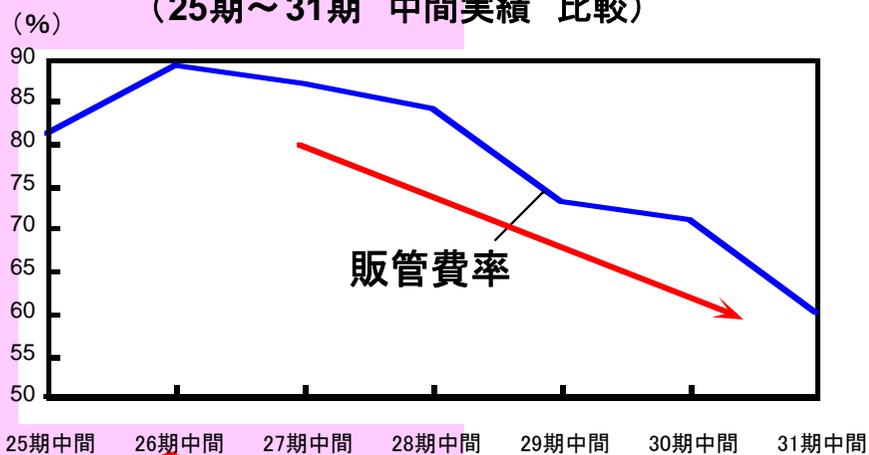
売上原価の削減

ピーク時の26期  
中間実績より  
17% 削減!

粗利益 vs 売上原価 構成比  
(25期～31期 中間実績 比較)



販管費率 推移  
(25期～31期 中間実績 比較)



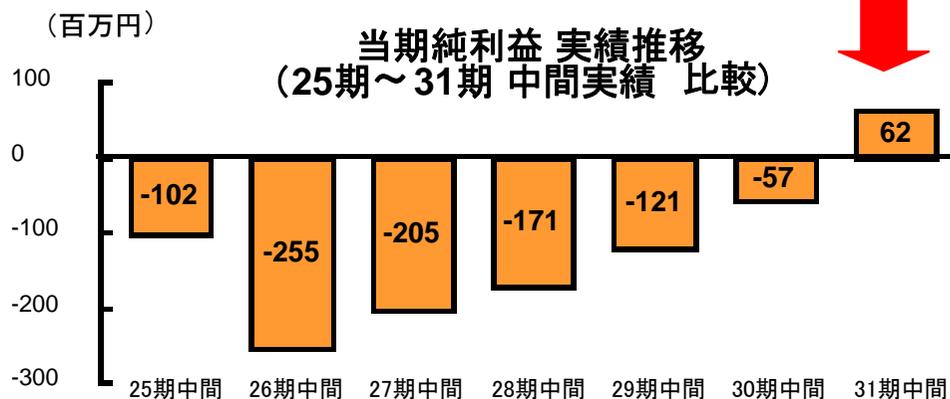
販管費の削減

ピーク時の26期  
中間実績比較 29.2% 減

収益性の改善!

コスト削減の効果もあり、  
31期中間実績 黒字化を達成

当期純利益 実績推移  
(25期～31期 中間実績 比較)



**【研究用関連事業】**

売上高：288,635千円（対前年同期比6.3 %減）

営業利益：28,441千円（対前年比157.4 %増）

- 国内市場 - タカラバイオ(株)独占販売契約締結完了(5月)
  - 自社製品ELISAおよび抗体製品の販売が増加
  - 受託サービス事業の引継ぎ期間における受注が大幅減少
- 海外市場 - タカラバイオ(株)へ既存代理店契約移行完了(8月)
  - 海外市場 - 同社海外子会社による販売活動を本格始動予定
- 収益率の改善
  - 原価率の改善 自社製品売上構成比の増加(対前年同期比構成比率：8%増)
  - 販管費の改善 営業部の廃止によるコスト削減

**【医薬用関連事業】**

売上高：80,349千円（対前年同期比15.4 %減）

営業損失：23,245千円（前年同期は59,507千円の営業損失）

体外診断薬（タゴシッド、BSEキット）堅調推移、前期販売を終了した取扱製品分の売上高の減少が影響。将来に向けた研究において選択と集中を続行。

**【その他 - 遺伝子組換えカイコ事業】**

売上高：12,380千円 営業損失：1,961千円

TGカイコ抗体、動物用医薬品受託サービスおよびヒトコラーゲン配合化粧品原料の開発・生産・販売開始。

# 貸借対照表の概要



| 単位:百万円  |       | 平成24年3月期末 |       | 平成25年3月期<br>第2四半期末 |       |       |
|---------|-------|-----------|-------|--------------------|-------|-------|
|         |       |           | 構成比   |                    | 構成比   | 増減    |
|         | 流動資産  | 975       | 43%   | 1,063              | 46%   | 88    |
|         | (現預金) | (444)     | (19%) | (642)              | (28%) | (198) |
|         | 固定資産  | 1,314     | 57%   | 1,264              | 54%   | ▲49   |
|         | 資産合計  | 2,289     | 100%  | 2,328              | 100%  | 39    |
|         | 流動負債  | 140       | 6%    | 127                | 5%    | ▲12   |
|         | 固定負債  | 55        | 2%    | 45                 | 2%    | ▲10   |
|         | 負債合計  | 196       | 9%    | 173                | 7%    | ▲23   |
| 純資産合計   |       | 2,092     | 91%   | 2,155              | 93%   | 62    |
| 負債純資産合計 |       | 2,289     | 100%  | 2,328              | 100%  | 39    |



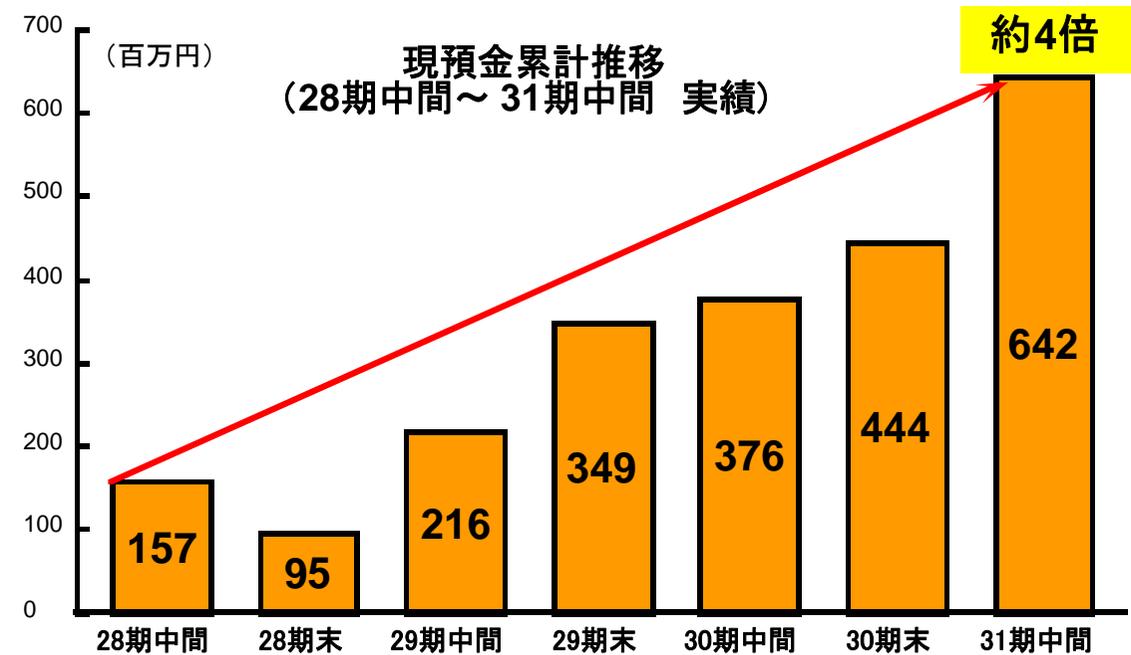
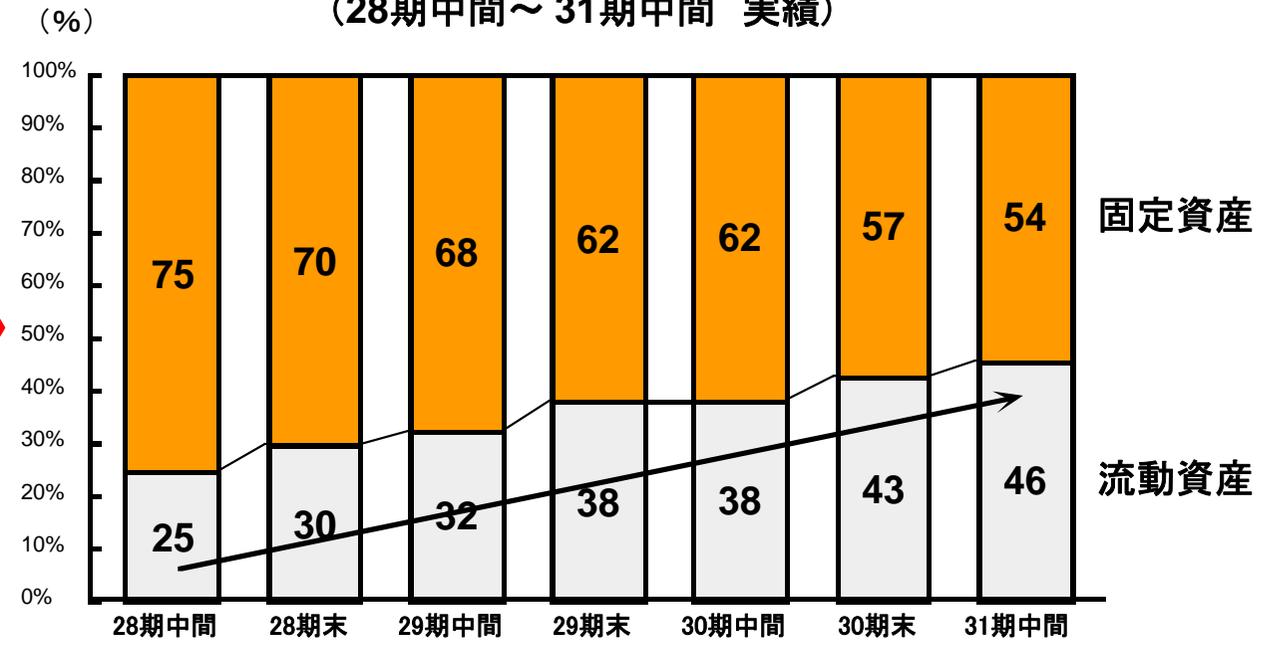
流動資産を増加させ  
健全な財務運営を  
目指します。

自己資本比率は、  
90%以上を維持

現預金累計の増加

28期中間以降  
約4倍に増加

流動資産 vs 固定資産(累計) 構成比推移  
(28期中間～31期中間 実績)





# キャッシュ・フロー



| 単位: 百万円              | 平成24年3月期<br>第2四半期<br>累計期間<br>(第30期) | 平成25年3月期<br>第2四半期<br>累計期間<br>(第31期) | 前期比<br>増減 | 主な要因                      |
|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------|---------------------------|
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー | 31                                  | 210                                 | 179       | 税引前当期純利益の計上<br>売掛債権の回収率向上 |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー | 10                                  | 5                                   | ▲4        | -                         |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー | ▲16                                 | ▲16                                 | -         | -                         |
| 現金及び現金同等<br>物の期末残高   | 345                                 | 610                                 | 264       | 財務基盤の安定化                  |

# 決算概要・経営計画

## 平成25年3月期 (第31期)

1. 第2四半期決算実績について
2. **平成25年3月期(第31期) 決算計画**
3. 経営計画の進捗について



# 平成25年3月期 (第31期)決算計画



| 単位:<br>百万円 | 平成25年3月期<br>第2四半期<br>(累計期間<br>実績) | H25年3月期<br>年間計画 | 主な要因  |
|------------|-----------------------------------|-----------------|---|
| 売上高        | 381                               | 1,050           | <b>【タカラバイオ(株)販売活動が本格始動】</b><br>・ 国内・海外にて、自社ELISA、抗体製品の販売量の増加<br>・ 国内において、受託サービス受注量の増加   |
| 営業利益       | 3                                 | 150             | <b>【体外診断薬(タゴシッド/BSEキット)販売堅調】</b><br>・ タゴシッドTDMキット - 大手検査センターより継続受注<br>・ BSEキット - 下期受注堅調 |
| 経常利益       | 71                                | 200             |   |
| 当期純利益      | 62                                | 194             | <b>【収益構成比による収益率の改善】</b><br>・ 自社ELISA, 抗体製品の販売量の増加<br>・ 原価および販管費の継続抑制                    |

# 決算概要・経営計画



## 平成25年3月期 (第31期)

1. 第2四半期決算実績について
2. 平成25年3月期(第31期) 決算計画
3. **経営計画の進捗について**

### \* 重点施策 \*

- ◆ 製品開発力の強化
- ◆ 海外市場への展開
- ◆ 遺伝子組換えカイコ成長戦略
- ◆ 生産性向上・安全性向上





| 項目             | 課題  | 第2四半期実績 (31期)  |
|----------------|---|--|
| アルツハイマー病       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研究用試薬から診断薬への応用</li> <li>■ 海外企業との共同開発・業務提携</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ADx社との共同研究開発契約締結 (6月)</li> <li>➢ IBL-Int'l 社と共同研究開発契約締結 (7月)</li> </ul> |
| がん・炎症          | ■ 診断薬の共同研究開発  | ➢ 中皮腫の早期診断に向けた診断薬開発(順天堂大学との共同研究進行中)  |
|                | ■ がんマーカーの共同開発および製品のリリース   | ➢ がん化進展度を判定できるマーカーの開発: 関西医科大学との共同開発・リリース「抗リン酸化Smad3Lモノクローナル抗体」   |
| 糖や脂質代謝<br>関連疾患 | ■ 新製品の開発<br>(選択と集中)   | ➢ 他社製品と差別化できる新製品開発に注力  |
| 新製品リリース        | ■ 新製品の下期上市<br><b>目標; 計12品目</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アルツハイマー病(1製品)</li> <li>➢ がん・炎症関連(Smad3Lを含む8製品)</li> </ul>               |

IBL

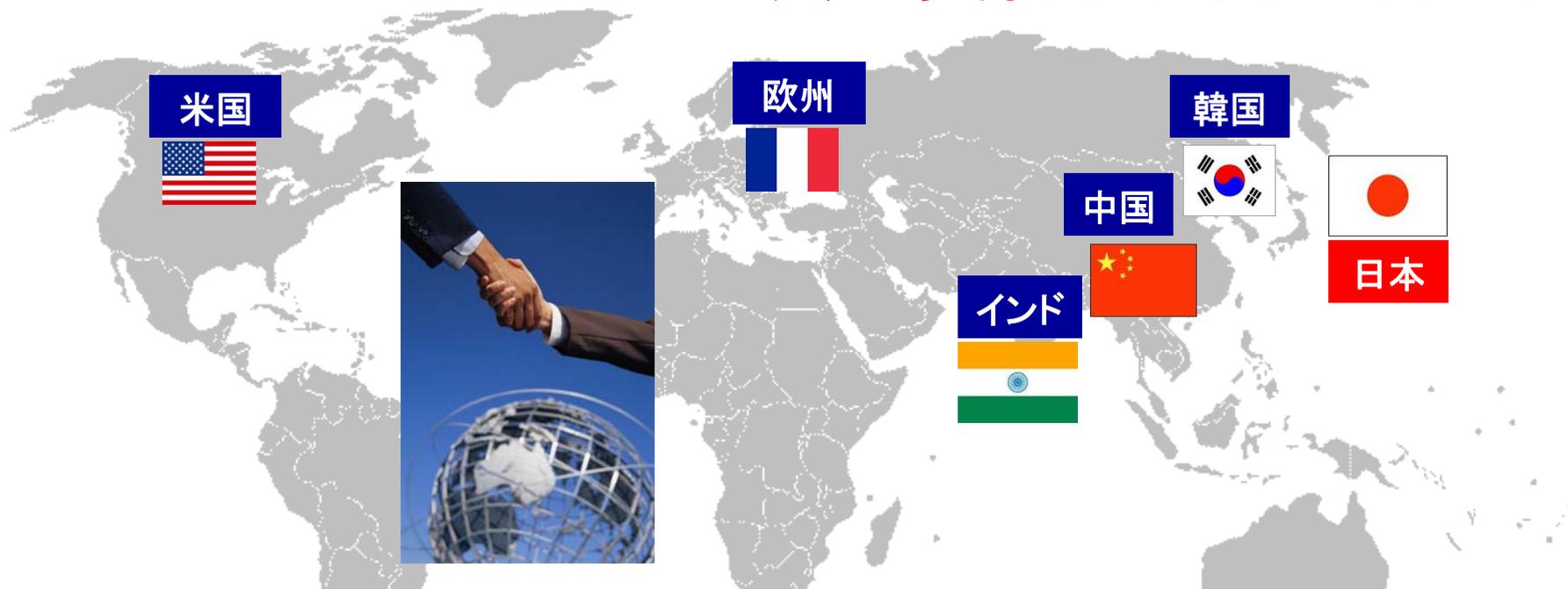


# 海外市場の販路拡大

当社の既存代理店契約



タカラバイオ(株)へ契約移行完了済み。



タカラバイオ(株)グローバルネットワークにて  
海外市場販路拡大に向け本格始動。

ヒトにはヒトの  
コラーゲン！！

## ■ 化粧品原料(ヒトコラーゲン)

既存水溶性コラーゲン(ブタ、魚由来)との差別化、高付加価値化のために「ヒトコラーゲンI」として **INCI名**(化粧品原料の国際名称)登録を申請中

日本化粧品連合会に申請

**アレルギー性**などの安全性を担保する試験を実施する。

## 試薬、診断薬原料への実用化(抗体)

### → 自社製品原料抗体の転換

主要なモノクローナル抗体をカイコ由来の抗体に転換

### → 他社製品原料抗体の転換

確実な収益源として有望視。

特徴

- ・安定的な生産
- ・非特異反応の抑制
- ・均一性が高い



## 遺伝子組換えカイコ成長戦略－2

### ■ 治療薬原料(タンパク質)の開発と実用化

#### 動物用治療薬原料

他社と共同開発中。カルタヘナ法の申請、前臨床試験に向けた製造実施中。

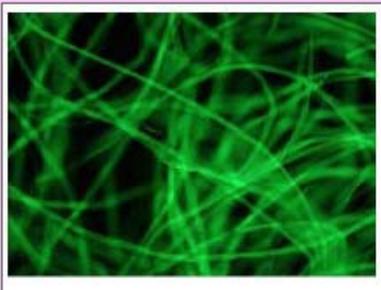
#### フィブリノゲン(止血剤)の開発

組換えフィブリノゲンの精製方法確立、詳細な解析によって、天然型と同様アミノ酸組成であることを確認。活性の詳細を検討中。

#### ウイルスワクチンの共同開発

人工的に合成した遺伝子を組み込んだ遺伝子組換えカイコを作出し、繭中からワクチン用タンパク質を生成。

将来に向けた基礎的な共同研究を開始。



# 生産性向上・安全性向上

R&D型企业として  
高品質な製品・サービス  
提供の為の組織・体制づくり

- 品質管理、品質保証の推進と強化
  - ISO13485認証更新手続き済み。
- 法令順守の徹底
  - 毒物・劇物対象製品管理システム整備済み。
- 薬事管理・製造管理強化体制づくり
  - 組織編制の実行(進行中)

当社は  
ISO13485  
認証施設です



# 治療用医薬品パイプライン

## 【アルツハイマー病関連抗体】

アミロイド $\beta$ タンパク質に対する抗体、コード名「82E1」について、契約を締結している米国Intellect Neurosciences, Inc.が、アルツハイマー型認知症治療薬「COMJUMAB-A」を開発中。Intellectは、大手製薬企業Lonza Group Ltd.に対して、前臨床試験に用いる試料の製造委託を正式に行った旨をリリース(9月)。

(参照: <http://www.intellectns.com/>)

➤他の、新しい中和機能を有するアミロイド $\beta$ タンパク質に対する抗体を大学および専門研究機関と共同開発中。

## 【関節炎・自己免疫疾患関連抗体】

当該タンパク質及び関連因子に対する抗体を開発中。



## 注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

